

会 議 録

会 議 名	第4回 (仮称)八王子市交通マスタープラン検討委員会	
日 時	平成26年9月18日(木) 10:00~11:45	
場 所	八王子市保健所別館 1階会議室	
出席者氏名	委員	鹿島茂委員長、駒沢広行委員長代理、中島静雄、長谷川久、鈴木律子、宮瀬睦夫、河村英知、松浦いつみ、三澤正俊、古屋幸一(本間美紀夫)、西山徹、肥塚知成(永山健一)、高山恒明、寺尾一彦(五十嵐幸司)、立石努(田崎達久)、三木健明、内田瞭、木内基容子、伊藤紀彦、高橋政雄、西山忠 ※()は代理出席者
	説明者	大木 昇主査
	事務局	坂倉 進交通企画課長、島田 涼子主任、畠山 陽平主事 株式会社日本能率協会総合研究所2名
欠席者氏名	なし	
議 題	(1) (仮称)八王子市交通マスタープランの全体構成(案)第2章~3章について (2)これまでの施策と、新たな施策の比較(案)について (3)これまでの意見の反映について (4)その他	
公開・非公開・別	公開	
非公開理由	—	
傍聴人の数	なし	
配布資料名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 資料1: (仮称)八王子市交通マスタープランの全体構成(案)第2章~3章 ・ 資料2: これまでの施策と、新たな施策の比較 ・ 資料3: これまでの意見の反映 ・ 資料4: 今後の検討スケジュール(案) ・ 参考資料: (仮称)八王子市交通マスタープラン たたき台(未定稿) 	

1. 目指すべき方向性について

【委員】人口減少・高齢化社会をふまえ、国土交通省ではコンパクトシティとネットワークを主軸においた国土のグランドデザインを示している。本計画は、この方針をふまえたものとなっているか。

【事務局】都市計画マスタープランにおいて検討されているが、人口のピークが全国平均とはずれていることなどから、明確に「コンパクトシティ」を押し出すことができない。本市では、鉄道駅を中心に自然発生的にコンパクトシティ化されている。またネットワーク化を図る際に、中心部・周辺部・観光を中心とした高尾など目的別に整理する視点が必要であると考えている。

【委員】自転車空間・整備がなかなか進まない中で、国土交通省は有機的な自転車ネットワークの整備を提言しているが、市の考え方はどうか。

【事務局】中心市街地を起点とした自転車ネットワーク整備、学校との連携、高尾路の観光目的など、目的に応じた整備を考えていきたい。

【委員長】国の施策や補助制度を積極的に活用した方がよい。

【委員】平成27年に移行する「中核都市」をもっと打ち出した方がよい。

【事務局】まとめ方にインパクトが欠けているので検討したい。

【委員】公共交通・自動車・自転車・歩行者とは別の視点から、福祉や観光の視点についても検討が必要である。ユニバーサルデザインは全ての交通に関わるものであるため、うまく整理する必要がある。

【委員長】観光や福祉などを含めて、ユニバーサルデザインの視点から見直す必要がある、という視点だと認識した。最後に、そのような主体別の交通の姿のようなものをまとめることができないか。

2. 具体的な施策について

【委員】主に駅に向かう道路について、高齢者が歩きやすく、自転車も運転しやすい道づくりを進めていただきたい。

【委員長】歩道を整備すると、車イスの方が通りにくいという視点もある。長期的な視点に立って、少しずつ合意を図ることが大切である。

【事務局】裏道の活用など空間の使い分けについても検討していきたい。

【委員】道路や橋梁の老朽化の視点が必要である。

【委員】リニア新幹線の整備にあたって、人の動線の変化について予測しているはずである。そうしたデータを活用できないか。

【委員】JR八王子駅と京王八王子駅の利便性を高める方向性が必要である。

【委員長】両者の歩み寄りを進めていただき、しっかりと課題として記録し、今後も継続的に検討していただきたい。

【委員】JR八王子駅北口については、これまで何度も議論してきているが、もう少し改造するという表現に踏み込めないか。産業交流拠点整備が進むと今の駅前広場はパンクする可能性がある。

【委員】JR 八王子駅と京王八王子駅の利便性については、京王駅から地下通路を伸ばし、今後再開発がおこなわれる産業交流拠点の広場に直通させるといった案も考えられる。本計画の中にはより具体的に施策を記載すべきである。

【委員長】優先順位をつけて、もう少しメリハリをつけた記述ができないかということであろう。

【委員】ユニバーサルデザインはバリアフリーを内包する概念であるため、用語をユニバーサルデザインに統一すべきである。

【事務局】指摘のとおり修正する。

【委員】JR 八王子駅と京王八王子駅を明神町に移転させたらいいのではないか。

【事務局】本計画の期間である 20 年の中で実現するのは難しいかもしれないが、まちづくりの部署とも連携して検討していきたい。

【委員】JR 八王子駅の北口・南口の活用については、協力可能なものがあれば調整させていただきたい。

【委員長】印象ベースではなく、事実ベースの情報を提供いただき、それを持って検討したい。

【委員】老朽化した橋梁が多くあるので、早急に対応していただきたい。また新しく作る場合は、徒歩・自転車・車を分ける設計にしていきたい。

【委員】東京都では、緊急輸送路に関係する橋梁を優先して対応しており、平成 27 年までにはそれら橋梁すべてについて、耐震化に向けた工事に着手する予定である。

【委員】今後はバス交通を中心に考えるということだと認識したが、「誰もが利用しやすい」といった抽象的な表現ではなく、具体的にどんなバスをどこに導入すると表現した方が、特色が出るのではないか。

【事務局】今後は公共交通を中心に検討を進める。八王子市地域公共交通活性化協議会で協議された内容を本計画の中に盛り込んでいる。例えば、市内で運行しているバス会社 3 社間の情報、路線の区分けにおける連携、バス停の整備など。交通空白地域は市独自のバスを運行しており、次年度具体的なプランを検討していく予定である。

【委員長】民間バス会社主体の中でバス交通をどのように動かすか。市がバスを借り上げる方法もある。韓国では、自治体が一括してバスを借り上げ、長・中・短の距離別に管理している。ただし、利便性は向上しても収益は伸びておらず、財政負担が増えているという状況があり、八王子でも同様の仕組みを考えるなら、一定の覚悟が必要である。

【委員】運輸連合という考え方もある。9/15 の日経新聞に掲載されていた。

【委員】キャピタル交通が乗合タクシーを運行しており、とても良いことだと思う。

【委員長】情報化の視点が欠けているので、盛り込んだ方が良い。技術発展に伴い、情報の記録、計算・交換が極めて安価にできるようになった。今後はリアルタイムでの計測のコストが下がるはずである。交通を需給関係で見ると、時間と場所が一致しないと意味がない。需要と供給を結ぶものとして、情報技術の活用が考えられる。

3. 質問事項

【委員】医療拠点とはなにか。

【事務局】八王子市は3つの大病院があり、それらのネットワークを強化することで救命における速達性を確保するなど、市内の医療機関へのアクセス性を高めることである。

【委員】道路アドプト制度の状況はどうか。

【事務局】57団体、1,400名程度が参加し、44km程度の道路を清掃している。